



茨城キリスト教大学
大学院文学研究科

英語英米文学専攻



英語コミュニケーション専攻

専攻名称が「英語英米文学専攻」から
「英語コミュニケーション専攻」に変わります

「英語コミュニケーション専攻」の特徴

Academic Communication Skills

1年次必修科目である「Academic Communication Skills A・B」の履修を通して、研究を進める上で不可欠である英語コミュニケーション能力の向上を目指します。

英語で「聞く・話す・読む・書く」学術的応用スキルを初年度からトレーニングすることで、英語での口頭発表や論文執筆に備えます。

英語を母語とする教員の指導の下、より自然で適切な学術英語の使用が学べます。

現職英語教員
のための

選べる3つの履修プラン

英語コミュニケーション専攻では、現職英語教員の方でも修学しながら専修免許が取得できる以下の3つのプランを提供しています。

基本プラン

- ・3年間（週に1回～2回程度来校）勤務しながら修学し、修士号&専修免許取得

大学院修学休業プラン

- ・1年目大学院派遣
- ・2年目勤務しながら修士号&専修免許取得

自己啓発等休業プラン

- ・1年目前期本学、1年目後期／2年目前期留学、2年目後期本学で修学し、修士号&専修免許取得

VOICE OF ALMUNI



米国オクラホマ州
HITACHI VANTARA勤務

みなさんこんにちは。私は2009年から3年間かけて文学研究科英語学を修了致しました。専門は、syntax（統語論）で修士論文は動詞のアスペクトをテーマに書かせていただきました。当時は日本語教育にも興味があった為、院生1年目を終えた後1年間の休学を頂きベトナムのホーチミンで日本語教師として働き帰国後、修士論文に取り組みました。滞在中は必要最低限ではありますがベトナム語も勉強しておりましたので、複合語に関する授業ではベトナム語と英語の複合語の比較に関するレポートを書かせていただく機会もありました。私は英語を含め、言語一般に興味を持っておりましたので日本語やベトナム語といったことばを言語学の視点から学び、言語の視野を広げたことでより深い英語の言語構造や法則の理解に繋がったと思っています。院生生活は、とにかく一つ一つの授業がとても楽しく充実していました。先生との一对一の授業もあり、コーヒーと焼き菓子片手に先生とフレンドリーな関係を築きつつも専門的で高度な学問の話ができた経験は、学部生時代には味わうことのできない濃密な時間だったと思います。また、専門は違うにしても院生仲間と励まし合い、互いの研究

について熱く語り合った時間も今の私にとっては大きな財産です。

現在は、オクラホマ州ノーマン市にある日立製作所の子会社Hitachi Vantaraのグローバルサプライチェーングループで生産管理の仕事をしております。ノーマン市にある工場では、日本の日立製作所がデザインしたストレージ（デジタルデータを格納する装置）を生産し、アメリカ国内・ヨーロッパへ顧客向けに出荷しています。生産管理のお仕事は、月ごとや四半期ごとなど決められた期間にどのくらい生産するべきかを需要・在庫のデータを基に決定し、私はヨーロッパ向けの出荷を担当しております。今のお仕事は大学院で学んだことと直接関係しているわけではありません。ですが、アメリカという人種多様な社会で英語でコミュニケーションをとらなければならない環境下にいる私にとって、統語論や応用言語学など大学院で培った学術的な知識が様々な場面で生かされていると感じる時があります。そう！ことばは繋がっているのです！私は英語という言語に今もなお向かい合うことができて幸せです。英語学はとても面白い分野です。みなさんも興味があったらまずはコーヒーと焼き菓子片手に先生のオフィスへ立ち寄ってはいかがでしょうか。きっとあなただけの言語ワールドが待っているはずです。

このようなお話をいただいたときに、この学園で過ごした時間が戻ってきた感じがしました。大学院での学びは、一言で表すと、「濃い時間だった」、その一言に尽きます。とにかく、少人数のゼミのような授業が多いので、先生方と僕たち学生の距離が、かなり近かったです。そのため、できる範囲で予習をしていないと辛いときもありまし、ときに、みんなで協力しながらも、課題に向き合うこともありました。言い方を変えれば、一番勉強に向かい合った幸せな時間でした。

また、大学院では、同級生をはじめ学年を超えた交流が盛んでした。そのときの仲間は、いまでも、大切な人たちです。難解な英語で書かれた文献に、わからないながらも、一緒に向き合った時間が、より絆を深くしてくれました。いまでも集まれば、当時の話をすることもありますし、現在、直面している課題についてヒントを得ることもあります。



デジタル庁 戦略・組織グループ
総務（国際戦略）担当

僕の場合、大学院を修了後は、官公庁において、仕事をしています（現在はデジタル庁に勤務）。僕が興味ある Applied Linguistics（応用言語学）は、「言語学の理論を現実社会に当てはめる」ことを目的としています。そのため、仕事においても、「なるべく誤解を生じない言葉を使う」、「どのように伝えればわかりやすいのか」、「どこが目的なのか」などについて、心掛けています。加えて、様々なタイプの職場を経験したことから、「できる範囲で、自ら対応しなければならない」ことは、習慣になりました。

それ以外にも、対外的な対応が多いので、「いま何が話題になっているか」について、メディアに触れることを習慣にしています。そのように、日々の情報に接する抵抗が低くなったことは、大学院の経験によるものだと考えています。

これらのように、大学院で学んだこととは、直接は異なる環境で生活していますが、いまの基礎にあるのは、大学院での学びです。僕の場合、どのようなカタチで、学んだことを社会に、そして学園に恩返しするかが、これからの課題になっています。

私が茨城キリスト教大学在学中に、大学院が開設されました。当時の私に「大学院」はとてもハードルが高く、雲の上の存在だと思っていました。大学を卒業後、茨城県内の公立中学校で英語科教員として十数年勤務したのですが、卒業生を送り出した時にふと、「もう一度じっくり勉強したいなあ」という気持ちが湧きました。在職中に教育論文を共同執筆したり、英語教育関連の雑誌に記事を投稿したりする機会があったことも、きっかけだったと思います。

恩師からの紹介もあり、母校の大学院で学ぶことを決断し、社会人入試を経て母校で2度目の学生生活を送ることになりました。

教員を退職しての大学院入学でした。そこで早くも高い高い壁が立ちました。英語力の凄まじい衰えです。テキストが全て英文で書かれていたので、辞書を片手に読み取ることで精一杯の毎日でした。在職中仕事に追われて、いかに自分磨きとしての勉強をしなかったのかを痛感する日々でした。私が入学当時に在学していたひと回り年下の若い先輩（ここにも執筆している鴨川さん、本多さんがその先輩です）には随分助けてもらいました。

この他に、教員の経験を生かして、教員を目指す学部生に教員採用試験の対策をお手伝いさせていただきました。

大学院での授業で、言葉を習得する仕組み、英語の語彙や文法を深く掘り下げた事柄、指導方法の変遷や海外での取り組みなど、幅広い分野を深く学びました。

少人数のため、院生の仲間と授業の中身についてたくさん意見を交わし、仲間や先生方から研究のヒントになる知識や刺激を数多くいただきました。今でも先生方、当時の若い先輩と親しくさせていただいています。

学術的なことだけではなく、大学院在学中は多くの方にサポートをしていただきました。在学中に第1子を授かりました。私の指導教官をしてくださった上野先生には、同じ女性であり「お母さんの先輩」として、学業以外のことも数多くアドバイスをいただき、とてもお世話になりました。その他にも授業を担当してくださった先生方には、いつも私の体調を気にかけていただき、出産予定日を考慮して授業日を調整してくださいました。

出産のために半期休学した後、大学院入学3年目、いよいよ修士論文の執筆に取り掛かりました。日中は子どもを学園内の託児施設と保育園に預けて授業や論文の執筆に取り組み、帰宅後は子どもを寝かしつけて夜中に授業の予習や論文の執筆をしました。

家族はもちろん、私に関わってくださった全ての方のサポートのお陰で、大学院を無事に修了出来ました。

大学院修了後は大学の兼任講師のお話をいただき、短い間ではありましたが、母校茨城キリスト教大学で授業をさせていただきました。現在は、茨城県内の開校10年目を迎える私立小学校で、英語科教員をしております。さらに、ここ数年は、大学の「英語科教育法」の授業で、学生の皆さんに勤務校での英語の授業についてお話する機会をいただいています。

今後も微力ではありますが、お世話になった茨城キリスト教大学に恩返しができれば幸いです。



学校法人江戸川学園
江戸川学園取手小学校 教諭



英語研修プログラムA

参加対象

中学校・高等学校英語教員
または同校種志望学生

研修内容・目的

英語教育に関する理論、英語指導技術
および英語力伸長、マイクロティーチング等

単位認定

本学大学院文学研究科「特殊演習A」（2単位）
として認定されます。

英語研修プログラムB

参加対象

小学校・中学校教員
または同校種志望学生

研修内容・目的

英語指導技術および英語力伸長（発音、イントネーション、
Small Talk、ALTとの会話等）、ポスターセッション等

単位認定

本学文学部現代英語学科「特殊演習」（2単位）
として認定されます。

申込
締切

5月
6日(土)

研修プログラムA・B共通

研修期間 8月6日(日)～20日(日)

研修場所 ハワイ・パシフィック大学

宿泊施設 イリマホテル

募集定員 各研修12名（各研修とも9名以下の場合は中止）

申込先

Eメール (murakami-m@icc.ac.jp) に件名「英語研修申込」と記載し、氏名（ふりがな）、
携帯番号を記入の上、お申込みください。
正式な申込書をお申込みいただいたEメールアドレス宛に添付ファイルをお送りしますので、
ファイル添付のできるメールアドレスをお知らせください。

研修費用

約70万円
（授業料・現地バス定期代：約20万円
航空運賃：約25万円
宿泊料：約25万円）

含まれる

・現地空港送迎費
・授業料 ・宿泊料金
・燃料サーチャージ

含まれない

・ESTA ・個人諸費用
・海外旅行保険
・手荷物超過料金

注意点

為替レートで金額は変動します。宿泊料は3名1室の料金です。
2名1室、個室は別途料金がかかります。

ご質問・お問い合わせ先

茨城キリスト教大学大学院
英語研修プログラム担当
murakami-m@icc.ac.jp

参加人数、為替レートの変動により、研修費用が変わる場合もあります。

本研修は、日本およびハワイ州の新型コロナウイルス感染症に係る入国
制限措置に関する制限や手続きが解除された状態でのみ実施されます。